

文部科学省選定2018-2020年度 私立大学研究ブランディング事業  
「東日本大震災を契機とする〈地域子ども学〉の構築—子どもの視点に立ったコミュニティ研究の拠点形成



# 子どもの 育ちを尊ぶ— 世代を超えて 地域子ども学 をつなぐ

2021年

**2月26日金** 15:20-18:30 (開場15:10)

【主催】 宮城学院女子大学 地域子ども学研究センター

無料  
事前申込制

第1部 「子どもの育ちを尊ぶ—地域文化と子どもの視点」

■ 山折 哲雄氏からのメッセージ

「わらべと翁—日本の地域文化」 朗読:黒田弘子氏 (本学OG)

■ 本学音楽科 学生による歌唱

■ 事例報告「地域子ども学と学生の取り組み」



第2部 「子どもの居場所と地域の役割 —北欧とつなぐ」

講演 「フィンランドにおける子ども・若者のウェル・ビーイングの推進」  
“Promoting the well-being of children and young people in Finland”

■ マリッタ・トッコネン氏 (Maritta Törrönen)

ヘルシンキ大学・教授 社会福祉学 子ども支援の専門家

■ コーディネーター ヒルトウネン久美子氏 (Kumiko Hiltunen)

フィンランド在住 社会福祉と教育の専門家

■ コメンテーター 木脇 奈智子氏 (藤女子大学 教授)

「子どもを育てるのは誰なのか—比較文化の視点から—」



□ 総合司会 丹野 久美子 本学生活科学部・食品栄養学科・准教授

主催

宮城学院女子大学 地域子ども学研究センター

TEL : 022-277-6207 Mail: childfuture-c@mgu.ac.jp

後援

宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所、生活環境科学研究所、人文社会科学研究所、  
発達科学研究所、社会連携センター、キャリア支援センター、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

お申込フォーム  
▶ <https://onl.tw/GEcGpXb>



## 子どもの育ちを尊ぶ―世代を超えて地域子ども学をつなぐ

主催:宮城学院女子大学・地域子ども学研究センター

日時:2021年2月26日 15時20分―18時30分 (15時10分開場)

総合司会 丹野久美子・本学生活科学部・食品栄養学科・准教授

開会挨拶 足立智昭・地域子ども学研究センター運営代表 本学教育学部・教授

第一部 15時20分―16時50分

### 第一部「子どもの育ちを尊ぶ―地域文化と子どもの視点」

第一部では、宗教学者の山折哲雄先生から寄せられたメッセージをお伝えします。「米寿を過ぎて思うこと」を「地域と子ども」を題材に自由に書いてほしいとの天童からの申し出にに応じてくださり、「わらべと翁―地域文化の視点」と題する玉稿をいただきました。朗読でご紹介します。

地域子ども学に寄せて～山折哲雄氏からのメッセージ

「わらべと翁―日本の地域文化」 山折哲雄

老いの姿／老人と子供という人間関係／老人の未来性と子供の存在／  
翁と童子／この国の文化伝承／「小さき」たちの世界／桃太郎と一寸法師／  
平成地蔵和讃／大震災のあとに／祈りと鎮魂／

朗読:黒田弘子氏(本学 OG)



### 山折 哲雄(YAMAORI Tetsuo)氏

宗教学者、評論家。

1931年父が浄土真宗の布教のため赴任していたサンフランシスコに生まれる。帰国後 12歳で母の故郷・岩手県花巻市に疎開。1954年、東北大学文学部インド哲学科卒業、同大学大学院博士課程修了。国際日本文化研究センター名誉教授(元所長)。国立歴史民俗博物館名誉教授、著書に『日本仏教思想の源流』(講談社学術文庫),『法然と親鸞』(中央公論新社),『「身軽」の哲学』(新潮選書),山折哲雄・綱澤満昭『ぼくはヒドリと書いた。宮沢賢治』(海風社),『恩人の思想 -わが半生 追憶の人びと-』(ミ

ネルヴァ書房),『米寿を過ぎて長い旅』(海風社)など多数。2001年京都新聞大賞文化学術賞、2002年和辻哲郎文化賞、2003年第54回NHK放送文化賞受賞。

地域子ども学に寄せて～山折哲雄氏からのメッセージ

「わらべと翁—日本の地域文化」に続き、電話対談(ライブ配信)があります。

### 山折哲雄氏と天童睦子の電話対談「わらべと翁—東北発の子どもと文化」

『米寿を過ぎて長い旅』// 仙台と京都/めんこいとはんなり/半跏思惟像と座の文化/高齢期からの未来性/小さな者への愛情/東北の地域文化/心に寄りそう



写真提供 山折哲雄氏ご本人

天童 睦子 (TENDO Mutsuko)宮城学院女子大学・  
一般教育部・教授 本事業プロジェクト・リーダー

仙台市生まれ(旧姓 仁田)、東京女子大学文理学部社会学科卒業、子育て期、国際関係の仕事を経て大学院で学ぶ。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了(教育社会学専攻)、博士(教育学)。名城大学人間学部教授を経て、2015年より現職。専門 女性学、子どもと教育の社会学。主な著書に『都市環境と子育て—少子化・ジェンダー・シティズンシップ』共著・勁草書房 2003、『育児言説の社会学』編著・世界思想社 2016、『女性のエンパワメントと教育の未来』東信堂 2020、『災害女性学をつくる』共編著・生活思想社 2021 など。



Photo by T. Chiharada

第一部後半 16時15分～

## いま子どもたちに伝えたい歌

学生による歌唱「花」

歌唱 音楽科 声楽コース4年 鈴木うらら

伴奏 音楽科 器楽コースピアノ専攻4年 菅野梨々子

於：ハンセンホール

指導・協力 井坂 恵 本学音楽科准教授



## 「地域子ども学と学生の取り組み」

事例報告

1. 「食を通じて笑顔に！地域と連携した災害食ボランティアの取組み」  
本学学生ボランティア Food and Smile! 有志  
本学食品栄養学科3年 三浦絵里香、遠藤真子
2. クラウドファンディングを活用したコロナ渦の病児の遊びと学びの支援  
本学学生ボランティア さくらレオクラブ有志  
本学英文学科2年 田中友理、佐竹美来

第一部まとめ 丹野久美子 准教授(TANNO Kumiko)

第一部司会・朗読 黒田弘子氏

仙台市出身。宮城学院女子大学学芸学部日本文学科卒業。在学中からアナウンスを学び、卒業後 アナウンサー派遣事務所に在籍。1993年に独立。以後、フリーランスのアナウンサーとしてDate fm、NHK テレビなど仙台市を中心に全国各地で仕事を手がける。現在はFM山形にてレギュラー番組をもほか、朗読家としても活動中。





### Food and Smile!

写真左から 指導教員:丹野 久美子准教授(食品栄養学科)

食品栄養学科 3年 三浦 絵里香さん

食品栄養学科 3年 大滝 美穂さん



### さくらレオクラブ

写真左から3番目 指導教員:足立智昭教授(教育学科)

左から4番目 本学英文学科 2年 佐竹 美来さん

左から6番目 本学 英文学科 2年 田中 友理さん

さん

〈休憩〉 16時50分~17時

第二部 17時—18時30分

## 第二部「子どもの居場所と地域の役割—北欧とつなぐ」

第二部では、北欧フィンランドとオンラインでつなぎ「子どもの居場所と地域の役割」をともに考えます。講演はマリッタ・トッコネン教授（ヘルシンキ大学）による「フィンランドにおける子ども・若者のウェルビーイングの推進」です。トッコネン先生は社会福祉学、子ども支援、家族政策に詳しい著名な方です。本講演は、北欧らしい先駆的取り組みと価値観に触れることのできる貴重な機会となりましょう。通訳・コーディネーターにフィンランド在住で「社会福祉と教育の専門家」ヒルトネン久美子氏、コメンテーターにフィンランドのネウボラ（出産・育児の切れ目ない支援）に詳しい木脇奈智子先生（藤女子大学）を迎えます。

\*本事業では北欧型フューチャーセンターをモデルに、東北発「市民、若者、子どもと地域」をつなぐ共創の場として地域子ども学研究センターを立ち上げました。

第二部 司会・趣旨説明

本間 義規（HONMA Yoshinori）

司会協力：千葉萌（本学教育学部・幼児教育専攻4年）

### 基調講演

## 「フィンランドにおける子ども・若者のウェルビーイング」



マリッタ トッコネン ヘルシンキ大学教授

（社会福祉学、子ども支援、家族政策）

Professor Maritta Törrönen, Ph.D.,  
Professor of Social Work, University of  
Helsinki, Finland

Keynote speech, “Promoting the  
well-being of children and young  
people in Finland” (**Lastenja nuorten  
hyvinvoinnin tukeminen Suomessa**)

講演はフィン語で日本語のスライド・通訳付です。

コーディネーター／通訳

ヒルトネン久美子氏

(HILTUNEN Kumiko)

発表 「フィンランドの教育とくらし」「子どもの居場所作りー地域の役割」  
フィンランド在住 社会福祉と教育の専門家



コメンテーター

木脇奈智子氏 藤女子大学教授

「子どもを育てるのは誰なのかー比較文化の視点から」

木脇奈智子(KIWAKI Nachiko Ph.D,) 藤女子大学  
人間生活学部 教授(比較文化博士)

主な著書に、木脇奈智子・編著『子育て支援』中山書店 2020, 大和礼子・斧出節子・木脇奈智子編『男の育児・女の育児』昭和堂 2008, Emiko Ochiai & Barbara Molony Eds. 'Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies' "Asia's New Mothers " Global Oriental Ltd (UK) 2008

学生・市民とのディスカッション



討論者:西浦 和樹(NISHIURA Kazuki)



足立智昭 (ADACHI Tomoaki)

宮城学院女子大学・教育学部・教授/地域子ども学研究センター運営代表

博士(教育学)。発達心理学専攻。主な著書、研究業績『臨床発達心理学の基礎』(共著)ミネルヴァ書房 2017, 『北欧スウェーデン発 森の教室: 生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育』(共訳)北大路書房 2016(日本創造学会賞受賞), 『加速度センサを用いた積み木による子供のストレス軽減効果に関する一検討』(共著) ヒューマンインタフェース学会研究報告集, 2014年,16, 91-96.(2014年度ヒューマンインタフェース学会研究賞受賞)



丹野久美子 (TANNO Kumiko)

宮城学院女子大学・生活科学部食品栄養学科・准教授

博士(情報科学)。専門: 栄養教育論。

宮城学院女子大学卒業後、東北大学学生部厚生課保健掛文部技官(栄養士)として勤務。2003年、仙台大学体育学部運動栄養学科助手。2005年に同講師となり、2009年に同准教授。2013年から宮城学院女子大学学芸学部(2016年より生活科学部)食品栄養学科准教授。

研究業績 鎌田由香, 倉澤範子, 遠又靖丈, 丹野久美子, 小野道子, 小林香織, 張妹, 辻一郎, 平本福子: 食品群別摂取量に対する食物摂取頻度調査票(厚生労働省「乳幼児栄養調査」)の妥当性―仙台市認可保育所における横断研究―, 厚生生の指標(65-8), 29-34(2018). 丹野久美子, 木野和代, 平本福子: 保育所通所児の保護者に対する食からの子育て支援プログラムの開発―実態調査による課題分析―, 宮城学院女子大学発達科学研究 17, 45-58(2017.3)



## 本間 義規 (HONMA Yoshinori)



宮城学院女子大学・生活科学部生活文化デザイン学科・教授  
博士(工学)。岩手県立大学盛岡短期大学部 教授を経て、2015  
年より現職。主な研究業績 カビの発牛理由と人体への影響, 建  
築技術 1月号, 90-91, No.840, 2020.1, 基礎断熱で床下  
にカビが発生していたら, 建築技術 1月号, 121-123,  
No.840, 2020.1, Yoshinori HONMA, Akira  
FUKUSHIMA, Masaki TAJIMA, Junichiro  
MATSUNAGA: Simulation Study on Optimizing the  
Hygrothermal Condition of an Underfloor  
ventilation Chamber, Roomvent & Ventilation 2018, Espoo, Finland



## 西浦 和樹 (NISHIURA Kazuki)

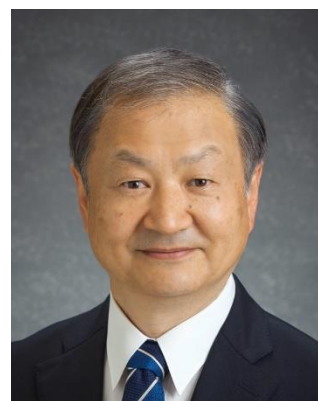
宮城学院女子大学・教育学部・教授

博士(心理学)。2011年から2012年にかけてリンショ  
ーピング大学客員教授としてスウェーデンに滞在。主な著  
書・研究業績 カリーナ・ブレイジ(著) 西浦和樹(編訳)  
『北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動  
事例集』北大路書房 2019, 『北欧スウェーデン発 森の教  
室:生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育』共著・北大路書房 2016, 西浦和樹  
(2017)アウトドア教育で科学するところを育てるー創造的問題解決による知識の活用を  
促す授業法とその実践. 日本創造学会誌(SIG 特集),20,26-29(招待論文)

\*終了後、アンケートにお答えください。  
ご参加誠にありがとうございました。

## 「おわりに」学長/末光眞希

末光 眞希 博士(工学)東北大学学際科学国際高等研究  
センター 教授, 同大学電気通信研究所 教授, 同ナノ・ス  
ピン実験施設長などを歴任。2019年東北大学特任教授  
(客員)。2020年4月 宮城学院女子大学 学長に就任。  
専門は電子・電気材料工学、半導体テクノロジーであるが、  
音楽にも造詣が深く歌とオルガンを得意とする。



閉会宣言